

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|--|-----------------|-----------------------------------|
| 課題番号 | 18109007 | 研究期間 | 平成18年度～平成22年度 |
| 研究課題名 | 中高年者のこころの健康についての学際的大規模縦断研究－予防へのストラテジーの展開 | 研究代表者 (所属・職) | 下方 浩史(国立長寿医療センター 研究所・疫学研究部・部長) |

【平成21年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|-----|--|
| A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| ○ B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |

(意見等)

本研究は、多数の地域住民の協力を得ながら、十年以上にわたって継続されている長期縦断研究であり、貴重なデータが得られることが期待される。特に、中高年者の心の健康に関し、生活習慣、社会的・経済的背景、遺伝子多型等、多面的な解析を試みている野心的な研究である。例えば、男性の5%、女性の4.5%が認知症とされるにも関わらず、殆ど治療を受けていないというような、重要な指摘もされている。しかしながら、対象となる時期においては、モノグラフの発表はあるものの、特に英文の **publication** が乏しい。その原因としては、研究分担者の異動や、アシスタント・スタッフ及び心理学研究者の確保が困難という問題点が考えられる。これに対する解決策としては、心理学研究者の代わりに精神科医の助力を仰ぐことも考えられる。今後、研究代表者は、基盤研究(S)の研究として、一流の国際誌への発表をこれまで以上に努力する必要が強く求められる。

【平成23年度 検証結果】

| | |
|------|---|
| 検証結果 | 中高年の「こころ」の健康について多面的な研究を行ったものであり、この年齢層での自殺者の増加などといった社会背景を考えると、本研究は重要な意義を有するものと評価できる。しかしながら、平成21年度の評価でも指摘されている問題、すなわち「英文の publication が乏しい」という問題は解決されなかった。雑誌論文15件のうち、英文はわずか2件であった。残る和文論文13件のうち11件が同一の雑誌に発表されており、その雑誌も国内のトップレベルとは言い難い。以上のように、本研究の成果は、基盤研究(S)のレベルとしては物足りないと言わざるを得ない。 |
| B | 研究はユニークなものであり、研究結果も興味深いものであるだけに、どこに問題があるのかを検討し、今後発展していくことを強く希望する。また、社会的ニーズの高い研究でもあり、マスコミ等を通じての研究成果の社会還元の一層の努力が期待される。 |